

都道府県名	岩手県
-------	-----

## 学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	花巻市立花巻中学校					
学年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	5	4	5	2	16	29
生徒数	181	160	190	3	534	

## 研究の概要

## 1. 研究主題

基礎・基本の確かな定着を図る指導方法の改善  
～習熟度別少人数指導を中心とした個に応じた指導の在り方～

## 2. 研究内容と方法

## (1) 実施学年・教科

- ・ 第1～3学年・数学  
生徒の習熟度の違いが大きいことや題材の系統性が明らかなこと、基礎から発展までの流れが明確な教科であるため。
- ・ 第1～3学年・英語  
生徒の理解の状況に差が出やすい教科、学年であるため。

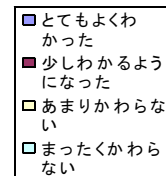
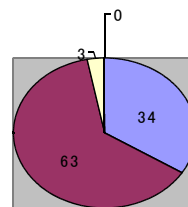
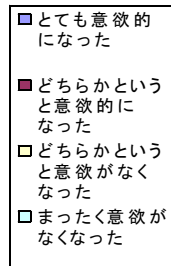
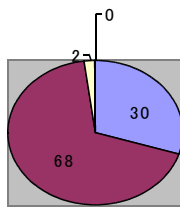
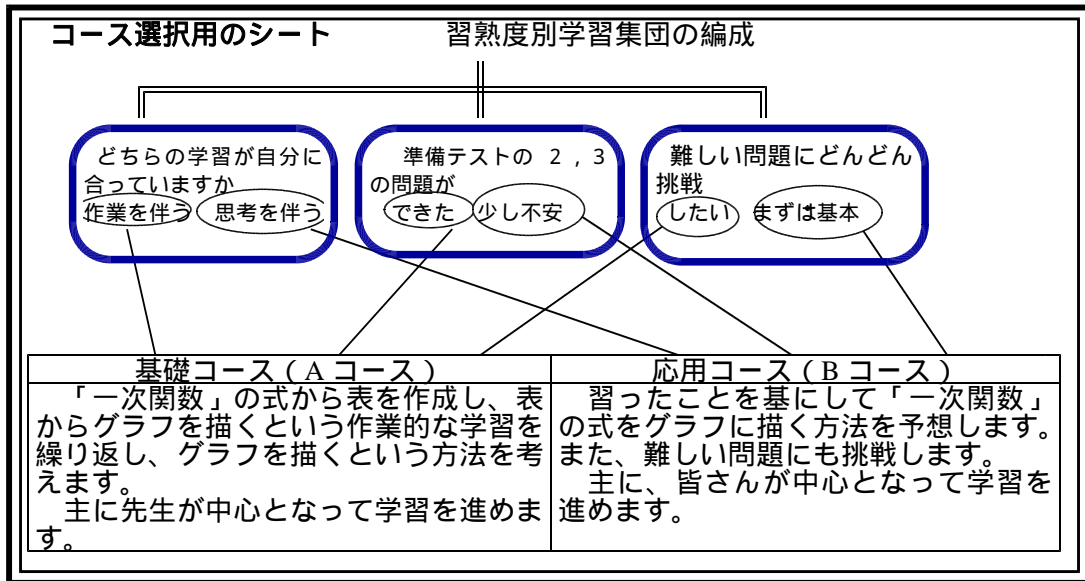
## (2) 年次ごとの計画

平成14年度	<p>テーマ 基礎・基本の確かな定着を図る指導方法の改善 ～習熟度別少人数指導を中心とした個に応じた指導の在り方～ 研究の見通し(仮説) 習熟度の差が大きい数学・英語において、習熟度別少人数指導を実施することで、基礎・基本の確かな定着を図ることができるだろう。</p> <p>研究の内容・方法 研究内容 ア 数学科、英語科における習熟度別少人数指導の効果について イ 習熟度別少人数指導のコース分けの方法について ウ 習熟度別少人数指導の校内方針について</p> <p>研究方法 ア 数学第1学年「方程式」における習熟度別少人数指導の効果を検証。 イ 英語第2学年「Reading Plus ~Multi Plus4」における習熟度別少人数指導の生徒の反応。 ウ 数学の研究授業による研究方針の検討。</p>
--------	--

平成15年度	<p>テーマ 基礎・基本の確かな定着を図る指導方法の改善 ～習熟度別少人数指導を中心とした個に応じた指導の在り方～ 研究の見通し 単元の学習内容に応じて、個に応じた習熟度別少人数指導を工夫することにより、基礎・基本の確かな理解と定着が図られるであろう。</p> <p>研究の内容・方法 研究内容 ア 習熟度別少人数指導の指導改善について ・ 習熟度別少人数指導を導入する単元の検討 ・ 個に応じた指導用プリントなどの研究</p>
--------	--



って意欲的に学習を継続することにつながっている。



< 少人数指導による意識変化 >

< 少人数指導で数学が分かるようになったか >

数学科における少人数指導の意識調査 (対象 第2学年 39名)

- (2) 英語科における習熟の程度に応じたワークシートの工夫による成果  
 昨年度の課題であった「どの生徒にも取り組めるワークシート」の改善のため、「基礎コース」では、練習問題やドリル学習を通して、基本文型を理解・定着させるようなワークシートを、「発展コース」では、基本を押さえた上で、応用・発展的な問題を盛り込んだワークシートを作成した。  
 2学期末テストに授業で使用したワークシートから5問出題した。  
 基礎コースを選択した生徒 20名のうち 19名が全問正解、1名が4問正解であった。他にも授業で使用したワークシートから出題したが、他の問題と比較しても正答率は高かった。このことから、習熟の程度に応じたワークシートの改善が、「書くこと」の指導における理解に効果があることが検証できた。
- (3) 言語事項の定着を図る習熟度別少人数指導の成果  
 第1学年「Unit 6 南半球からのメール」の単元の終末段階で、習熟度別少人数指導を実施した。  
 事前、事後テストを比較してみると基本コースは2.9点の伸び、発展コースは2.3点の伸びがあり、言語事項を定着させるために、単元の終末段階で行う習熟度別少人数指導は有効であることがわかった。  
 しかし、単元テストでは単語の綴りと語順の誤答が目立ち、言語事項の指導においては正しい綴りと語順で書くことを繰り返し学習することも必要であることが分かった。

	事前テスト 【12点】	事後テスト 【12点】	単元テスト 【25点】
対象全体	7.1	9.7	17.1
基本コース	5.8	8.7	13.4
発展コース	8.8	11.1	22.8

## 2. 今後の課題

- (1) ほとんどの生徒は習熟度別少人数指導に満足しているが、発展コースを選んだ生徒の中にはもっと難しい問題、若しくはもっと多くの問題に挑戦したいと感じている生徒もいる。基礎・標準・発展の3コース編成の検討など、さらに個を生かす手立ての充実が必要である。
- (2) 習熟度別少人数指導を行う上で、どの学年のどの単元で実施することが効果的であるか、教科の年間指導計画に基づいて、3学年を見通した実践的な検証が必要である。
- (3) 一斉指導の方が指導効果がある場合もあると考えられ、単元のどの学習段階で習熟度別少人数指導を導入すれば効果があるのか、単元の指導計画を吟味して検証する必要がある。

### 学力把握のための学校としての取り組み

- 1 単元前後にP1、P2テストの実施や定期テスト(年5回)指導方法改善による実践前と実践後の比較のため
- 2 第2学年におけるNRT(4月)及びCRTの実施(2月)地区や全国との比較のため
- 3 市販テスト(年3回)や学習定着度状況調査単元や領域の定着度を年度別に比較するため

### フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- 1 公開研究会の実施予定  
予定日時 平成16年11月12日(金) 13時30分～
- 2 研究成果については、平成16年度より随時HPに掲載
- 3 フロンティアティーチャーとしては、授業参観及び地区懇談会等で地域・保護者に研究成果を説明

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

【新規校・継続校】  15年度からの新規校  14年度からの継続校

【学校規模】  3学級以下  4～6学級  
 7～9学級  10～12学級  
 13～15学級  16学級以上

【指導体制】  少人数指導  T.Tによる指導  
 その他

【研究教科】  国語  社会  数学  理科  
 外国語  音楽  美術  技術・家庭  
 保健体育  その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】  有  無